

平成 2 8 年度

食品健康影響評価技術研究の追加公募における
採択課題について

平成 2 8 年 1 0 月

食品安全委員会 研究・調査企画会議
事前・中間評価部会

平成28年度食品健康影響評価技術研究の追加公募における採択課題

受付番号 主任研究者名 (所属機関名)	研究課題名 (研究期間)	研究概要	評点 (20点満点)	評価所見
<p>27 桑形 麻樹子 (一般財団法人食品薬品安全センター-秦野研究所)</p>	<p>発生毒性試験における胎児形態異常に関する背景データ収集およびフルシトシン誘発性過剰肋骨の発現機序から考察する骨格変異の毒性学的意義に関する研究 (平成28～29年度)</p>	<p>リスク評価時に重要な資料となる2010年から2015年の発生毒性試験の胎児観察背景データを収集するとともに、抗真菌剤フルシトシン投与による過剰肋骨の発現機構を投与時の胎児発生段階を考慮に入れて検討し、リスク評価における化学物質投与により発現する過剰肋骨の意義について考察することを目的とする。</p>	<p>15.7</p>	<p><総括コメント> 発生毒性試験における背景データの収集と過剰肋骨の誘発メカニズムから発生毒性の評価に必要な基礎データの取得が期待される。過剰肋骨の評価は専門家間でも多様な意見があるため、過剰肋骨発現の意義を明らかにすることは、今後のリスク評価に有用である。</p> <p><個別コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> 過剰肋骨の評価は専門家間でも多様な意見があり、また、今まで発生毒性に主眼をおいた研究テーマは少なかった。背景データ収集と、その応用として過剰肋骨誘発の機序解明のための<i>in vivo</i> 試験は妥当であり、本研究の成果は毒性評価に資すると考えられる。 毒性試験結果で得られた過剰肋骨を、リスク評価における判定にどう使うかという点に役立つ成果が期待できるため、採用したい研究である。 奇形と変異のリスク評価における判別に有用な研究である。2年目の<i>in vivo</i> 研究は初年度の進捗に応じて見直しが必要かもしれない。解析が今後の評価に利用しやすいまとめ方になることを希望する。 リスクアセスメントの発展に寄与する研究として期待したい。 分子生物学的メカニズムを明らかにするとともに、自然経過を追えれば、毒性学的意義がさらに増す。ただし、課題名は、研究の意図をより明確にするため、フルシトシン誘発性過剰肋骨の発現機序からの考察はサブタイトルとした方が良い。 研究の背景を正確に理解し、実験計画も明快である。 過剰肋骨発現の解明は望ましく、コアメンバーによるデータの検討も妥当と考えられるが、<i>in vivo</i> 試験はフルシトシン投与実験だけで十分なのか。